

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都練馬区
園名	アスク上石神井保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

・生活と音

<テーマの設定理由>

・室内で聞こえる音に「なんのおとかな」と不思議そうにする姿が見られる。また、園外でも車の音や生活環境の音に気づき、保育者に教える子がいる。すくわくプログラムを活用し、「音」について発展的な学びをして欲しいと考えたため。

2. 活動スケジュール

6月から2月まで行い、月に1回専任講師をと活動を行い、楽器や身の回りの物を使用し探求活動ができるようにした。各クラスでも活動を行いながらその都度、子どもたちの興味関心をもとに問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにした。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・園内マップ→聞こえた音を園内マップに書き込む。
- ・楽器→自分で好きな楽器を選べるように色々な楽器を用意した
- ・絵本や紙芝居→子どもたちが親しみのある物語を選んだ
- ・絵カード→絵カードを見てどんな音がするか考え意見を出し合った。
- ・ハンドベル→救急車など実際に使っているサイン音と同じ音を探して鳴らしてみたり、オリジナルのサイン音を作ったりした。
- ・紙皿、テープ、どんぐり、米、ストロー→身近な物を使って楽器作りをした。

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

「音ってなに？」の問いから、どんな音が聞こえるか園内から探した。また、オノマトペの絵本「もこもこもこ」を見てから、絵カードを使って他に身近な生活音でどんな音がするか考え意見を出し合った。そこから絵カードで出てきた救急車やパトカーに着目し、なぜ鳴っているのか考え、「サイン音」について探求した。園外や園内でサイン音を探し、ハンドベルを使ってオリジナルのサイン音も作った。「サイン音」をきっかけに「オノマトペ」に興味を広げていき、楽器を使ってオノマトペを表現した。また、楽器はどこから鳴っているか、どうやって鳴っているか考え、身近な物を使ってオリジナル楽器を作った。

探究活動の様子：

「音ってなに？」の問いから、どんな音が聞こえるかグループごとに園内から探し、園内マップに聞こえた音を書き込んだ。「ざらんざらん」「カタカタ」「トン」「チャリン」など感じたままに発言し、グループごとに見つけた音を発表した。次は絵カードを使って、他に身近な生活音でどんな音がするか考え意見を出し合った。1つの絵カードに対して、同じ意見の子もいれば、それぞれ違う発言する子もいて、感じ方の違いも共有できた。

絵カードで出てきた救急車や消防車の音を子どもたちがよく知っていたので、なぜ鳴らすのか考えた。ピアノの音に合わせて子どもが救急車を運転するイメージで歩き、「ピーポーピーポー」のピアノの音に合わせて保育者が救急車になって横切り、子どもたちは音を聞いて端に避ける活動をし、音が聞こえるとすぐに端に避けることができた。何度か繰り返した後、次は救急車の音なしで保育者の動きのみで行うと、気づかない子もいて、音があるとわかりやすいことに気づいた。これが「サイン音」ということを伝え、スピーカーを使って、様々なサイン音も聞いてみた。知っている音が鳴ると「信号の音！」と答える子もいて、他にどんなサイン音があるか問うと、踏切の音やパトカーの音など意見が出てきた。「サイン音」を知ったので、園内には「サイン音」があるか様々な部屋や廊下を回り探した。電話やインターフォン、火災報知器を見つけ、何のために鳴っているかも考えた。

ハンドベルを使って身近なサイン音を再現してみた。ハンドベルを順番に鳴らし「この音じゃないね」「ちょっと似ているけど違うか」とグループごとに同じ音を探した。同じ音が見つかるとうれしく「これだ！」と喜び一人ずつ鳴らしてみた。ハンドベルに貼ってあった音階の平仮名を見て、「シーソーシーソーは救急車の音！」と音階にも興味を持った。また、ハンドベルを使ってオリジナルのサイン音も作った。友だちとペアになり、どの音にするか一緒に考え作った。

「サイン音」をきっかけに、「オノマトペ」について興味を広げていった。イラストを用意し、楽器を使ってイラストのオノマトペを表現した。「この音はどのイラストか？」何人かで子どもたちがクイズを出すと、同じイラストでも違う楽器で表現したり、同じ楽器でも違うイラストだったり、「この楽器でもこのイラストの音に聞こえるね」「〇〇くんは、このイラストはこの楽器に聞こえるんだね」と新しい発見や友だちとの感じ方の違いに気付けた。

身の回りの物を使って、「どんな音が作れるか」、紙皿、テープ、どんぐり、米、ストローを用意し、オリジナルマラカスを作った。それぞれ入れたいものを1種類選び、種類ごとに音を鳴らして、どんな音がするか聞き比べた。「お米は、大きな音がする。ザラザラって聞こえる。」「どんぐりは木みみたいな音がする。低い音がする。」「ストローは、音が小さい。シャカシャカ聞こえる。」と音の違いを発見した。また、振るだけでなく叩いてみると、音の鳴り方が変わることも発見した。

ふりかえり(保育士の気付き)：

身近な音に「サイン音」という、生活に必要な音があることを知るきっかけになった。「サイン音」にはそれぞれ意味があることも学び、「サイン音」が聞こえると以前より反応することが増えた。身近な物を使ってマラカスも作ったので、本物の楽器だけでなく、他にも様々な物を使って音を鳴らしてみたり、楽器を作ってみたりして「音を作る」楽しさも味わえるようにしていきたい。

【4歳児実施分】

問いを考える：

生活の中に音は何があるか子どもたちに聞いてみた。「救急車の音」「踏切の音」など色々出てきた。園にはどんな音が隠れているか全員で園内マップを使って園内探検に出かける。その後は、ほかにどんな音があるかスピーカーを用いて音を聴き自分たちで紙に感じた音を描いていく。水遊びを通してどんな音がするかも考えてみた。後半は、楽器も用いて自分たちでグループに分かれて物語を考えたりオノマトペについて学んだ。

探究活動の様子：

生活の中にはどんな音があるか考えるためまず初めに園内探索をしていった。全体で集まりどんな音があったか意見を出し合っていくことにしたが意見が出てくる様子があまり見られなかった。そのため、講師が意見が出やすいようにヒントを出したり子どもたちが分かりやすいように促していくことで意見が出るようになった。乳児のクラスを回った時は「ちゅーちゅーってミルク飲む音とかした」「とんとんって音がした」など意見が出ていた。

色々な音があることが知った子どもたちは次に水遊びの際に水はどんな音が出るのか考えていった。水の音に関することをさらに広げていき自分たちで音を聴き紙に描くことを行った。音を集中して聴き「なんか動物の音がする」「ざーって音がした」「なんか雨みたいな音がする」など色々意見が出てきた。紙に自分がどんな音をしたか描く際には手が止まってしまう児や思いつかなく涙を流す様子もあった。

楽器にも触れ、どんな音が出るか考えていった。又、紙芝居を使って登場人物がどんな音を出すか考えた。最初は自分の好きな楽器を見つける児が多かったが講師が「登場人物はどんな音を出すかな？どんどんかな？」などの言葉で「やっぱこれじゃないな」と自分で考えながら楽器を変えていた。

グループに分かれて物語を考えていった。どんな音があるか考えていながらグループで意見を出し合い発表した。発表の際には他のグループの物語を聞き、笑ったり面白いと呟っていた。

オノマトペも学び部屋の中に音は隠れているか考えながら探索を始めた。自分の手元にある紙に描かれた字を見ながら「どんどんってどこにあるかな」「がっしょんってどこにあるの～」など考えながら行動していた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

生活と音で身近なもので行うことが出来たため子どもたちも楽しみながら考えることが出来たと思う。最初の方は意見が出てこなかった場面や自分で考え表現することに苦戦している様子が見られたが、日を重ねていく内に意見が段々出てくるようになったように感じた。園内探索や部屋の中で音探しをすることで色々な音があることに子どもたちも気付けたのではないかと思った。次の活動に繋げていくのが少し難しかった場面もあったが子どもたちの意見も取り入れつつ進めていくことが出来た。生活と音は身近に沢山隠れていることを子どもたちや保育者も気付けたため、活動や遊びの中で生活と音について引き続き学んでいきたいと思う。

【5歳児実施分】

問いを考える：

「音って何？」という話から、身近な生活音にはどんな音があるか考え、保育園の中で生活音探しを行う。生活の中には様々な音が隠れていると気付く中で、音の大小や高低に気付く。自分たちで楽器作りをしていく中でも素材や量、鳴らし方、表現の仕方によってさまざまな音を作り出すことができる楽しさを感じた。

探究活動の様子：

3人グループで園内探索を行い、音探しを行う。各クラスをのぞいて耳を澄ませ「おせんべいを食べる音はパリパリ聞こえた！」「子どもが歩く音はドンドンだね」「お皿の音はガシャンだったよ」など気付きを共有し合いマップに書き込みをする中で、生活の音に興味を示す姿がみられた。壁を叩く子、積み木同士をこする、叩く子、足ぶみを鳴らす子とそれぞれ心地よい音や面白い音を見つけて楽しむ姿が見られた。「壁を叩くと馬の走る音に似てる！」と面白い発想もあった。「優しく叩くと小さい音だね」「こっちの積み木は音が少し低いよ」など音の大小、高低差などにも気付く姿も見られたため、次に「音の違い」についての活動を行った。カップやカプセル、缶を用意し、ペットボトルのキャップを入れて音の違いを聴き比べ、音の大きさや音の高低差を楽しんだ。他にも紙コップに部屋の玩具を入れて、オリジナルの音を作り、4人グループの中で音を聞かせ合い、「レゴはシャカシャカするね」「入れる量を変えると音が変わるよ！」など素材や量によって音が変化することに気付く。散歩先でもどんな面白い音があるか子どもに問う。車の音、マンホールの中の音、小学校のチャイムなどに注目している子どもがいた。また、砂を歩く音とコンクリートを歩く音の違いに気付く姿も見られた。鳥の鳴き声、川の音、葉っぱが揺れる音など自然の音にも気が付く。

楽器作りの活動では、缶やカプセルにキャップを入れ、何に入れて鳴らしていたか子どもたちへクイズを楽しみ、様々な音に触れる中で音の変化や違いを問いかけていく。手作り太鼓を用意することで創作できることを子どもたちに伝えていく。楽器を奏する中で子どもたちが少しずつリズムよく叩いたり、力に抑揚をつけて音の鳴らし方を変えていく姿がみられた。ふうせん太鼓を作ってみたいという声が出ていたのでそれぞれ好きな廃材を集め、おんがくの時間に子どもたちと講師と風船太鼓作りを行った。それぞれ大きさや素材が異なることで「どんな音になるのかな？」とわくわくしながら作り進める姿がみられる。出来上がった物を奏でて他児と音の違いを楽しんでいた。

キャストにて楽器を使って身近な物の音を表現する活動を行う。身近な物のイラスト9個の中から1つ選んで楽器を使って表現し、4人グループの中でクイズを出し合う。その後はイラストを変えてクイズを出し合ったり、イラストにないものからクイズを出し合ったり、4人グループの中で問題を考え、全体の前で発表したりして楽しむ。その中で自分の感じ方と友だちの感じ方の違いに気付き、「カギはガチャガチャ！」「歩く音はトコトコかな？」「私はテッテッテーだと思っよ」と伝え合う姿が見られた。限られた楽器の中で様々な鳴らし方やリズムの取り方で表現する楽しさ、それを友だちに伝える面白さを感じる。最後のキャストではオノマトペが書かれたカードを1人1枚持ち、室内にあるものを使って表現する活動を行ない、オノマトペに興味を示す姿が見られた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

普段生活している中で様々な音があふれていることを知り、音の高低差や大小に気付く。その後自分たちで音を鳴らしながら、どのようにしたら音が変わるのか試したり、似ている音を探したりと試行錯誤しながら探求する楽しさを感じることができた。自分たちで楽器作りを楽しんだり、楽器で身近なものを表現したりしていく中で、人によって感じ方の違いがあることにも気付き、表現して伝え合う楽しさ、面白さも味わえたのではないかなと思う。音探しや表現活動以外でも身近なオノマトペを見つけて楽しむ姿が見られているため、継続して子どもたちの興味関心を広げていきたい。

5. 活動の様子が分かる写真

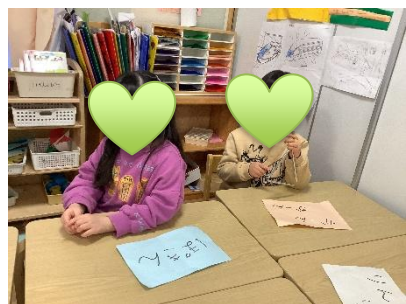
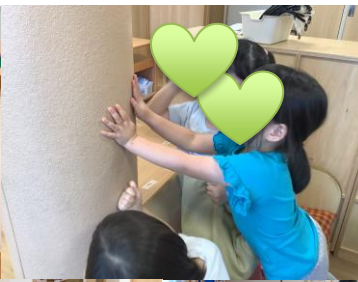
3歳児



4 歳児



5 歳児



とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都練馬区
園名	アスク上石神井保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

バランス力を上げよう

<テーマの設定理由>

体幹が弱い子どもが多く、年間で体幹プログラムを作成し、体幹を鍛える取り組みを始めた。怪我防止や、話を聞く姿勢、食事の姿勢などにも大きく関わってくる内容なので、様々な運動を通して、体幹を鍛え集中力を鍛えたいと考えるため。

2. 活動スケジュール

6月から2月まで行い、月に1回おんがくの専任講師を招致し、様々な動作を試したり、講師の指導の下で遊具を使うなどしたりしながら探究活動ができるようにした。各クラスでも活動を行いながらその都度、子どもたちの興味関心をもとに問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにした。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・竹馬→他児にぶつからないよう広い場所で行った
- ・ぽっくり→乗り方を子どもたちと考え、広い場所で行った。
- ・縄、巧技台、平均台、輪っか→バランス遊びで使用した。

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

最初に片足立ちでどのくらいバランスを取れるか秒数を計った。上手くバランスを取れない子が多く、そこから「どうやったら長く片足で立てるか?」「バランスを使った遊びは何か?」を考えた。「けんけん鬼」や「頭に物を乗せて落とさないゲーム」などを行ったり、バランスストーンや平均台を使用したりして、バランスの取り方を探っていた。バランス力が上がってくると、ぽっくりに挑戦したり、動物や身近な物になりきってバランス力を探求していった。

探究活動の様子：

最初にどのくらいバランス力があるか、片足立ちをして秒数を計った。ぐらぐら体が揺れてしまう子が多く、バランスを上手にとっている子の姿勢を見たり、他にどんな姿勢がバランスを取りやすいか考えたりして実際にやってみた。手を伸ばしてみたり、ひざを曲げたりして、自分の身体と向き合いながらバランスが取れる姿勢を考えられた。バランスを使った遊びを考えたときは、「けんけんぱ」「けんけん鬼ごっこ」「線の上を歩く(一本橋)」「頭に物を乗せて落とさないようにする」など意見が出た。実際に出た遊びを普段の遊びでも取りいれていき、楽しみながらバランス感覚を養ってきた。再度、片足立ちをして秒数を計った。前回と比べ、秒数が伸びバランス力が上がってきたことを実感することができた。

バランス力が上がってきたので、ぽっくりに挑戦した。乗り方を考え、つま先やかかとで乗った時に「落ちてしまう」「バランスがとれない」と意見が出た。実際にやってみるとやはり落ちたり、上手くバランスが取れなかったりしたので、足の真ん中に置くことを意識した。遊んでいく中でひざを曲げたり、腰を曲げたりして、様々な姿勢でもバランスを取ってぽっくりが出来た。

次に、動物や身近な物になりきってバランス感覚を探求していった。動物では「らいおん」「フラミンゴ」「カエル」「クラゲ」など名前が上がり、「どうやったらその動物に似ているポーズになるか」、「この動物のポーズはどうやったらバランスがとれるか」など考えながら上手に体を使って表現した。身近な物では、「ボール」「滑り台」「踏切」「木」「街灯」など上げられた。動物の時より、どんなバランスポーズが作れるか考えるのが難しかったが、様々なポーズを試してみることで、面白いバランスポーズができた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

最初は、うまくバランスが取れず体幹が弱かったが、遊びや活動を通して自然と体幹が鍛えられ、子どもたちが楽しみながら活動に取り組めた。また、体育座りをするときや椅子に座るときに姿勢が保てるようになり、身体の使い方が上手になってきたことで、転びにくくなった。

3歳児ながら自分で考え、様々な意見が出たことは驚きだった。大人が思いつかない面白い意見もあり、子どもの発想力に感心した。引き続き、様々な遊びを通して体幹を鍛えていきたい。

【4歳児実施分】

問いを考える：

最初にバランスとは何か子どもたちに聞いていきどんなバランスがあるか考えながら進める。まず初めに片足立ちをしてどのくらいバランスが取れるか秒数を計った。片足バランスを取れる子が多かったため、普段遊んでいる遊びでバランスを取れる遊びがあるか考えながら進めていった。次に、バランスを取れるようになったため運動器具（竹馬）を使うようにした。どこに力を入れる？どうやってバランスをとる？など考えていった。

探究活動の様子：

バランスって何だろう？どうやったら片足でバランスが取れるのだろうか？という所から始まり片足バランスをやってみることにした。片足バランスで立てる子が多くいたため、秒数を計ることにした。秒数が長かった子どもは「〇〇秒もとれた」と喜ぶ姿が見られた。お尻について足をあげバランスをとる、頭に丸シートを乗せバランスを取ったりしながらバランス力をあげていった。普段遊んでいる遊びも取り入れていった。「進化ゲーム」「けんけんぱ」「平均台」などを行いながらバランス力を養っていくことができた。

バランス力が上がってきたため、運動器具（竹馬）を使ってバランスを考えていく。最初はバランスを取れずに「怖い」「難しい」という声が上がっていた。どこに力を入れるのか知ることが出来ると上達してきて「またやりたい」との声があった。

再度竹馬に挑戦し、講師にどこに力を入れるか聞かれると「かかと」「て」「あし」などが出た。自分たちが答えたことを参考に一人ずつ竹馬に挑戦する。段々と活動を繰り返すことでバランスを保てるようになり「乗れた」「ちょっと自分で進めた」と喜びを見せていた。

バランスを取るのが上手になってきたため、今度はグループに分かれてどんなバランスがあるか考え発表することになった。グループで話し合う中で「飛行機バランスにしようよ」「片足バランスにする？」など意見が沢山出ました。発表では、どんなバランスを考えたかみんなの前で披露した。色々なバランスポーズを考えながら活動に積極的に参加する様子が見られた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

最初はどんなバランスがあるか全然意見が出なかったが活動を重ねていく毎に色々なバランスがあることを知ることが出来ていたと思う。友だちの頑張っている姿や諦めないで取り組む姿勢に刺激を感じながらやる気を出していた児もいたと感じる。体幹が全くなかった児も遊びの中でバランスを取り入れたことで少しずつ姿勢を保てるようになっていた。引き続き、活動や遊びを通してバランスを保つ遊びを考えたりしながら子どもたちがさらに体幹がつくようにしていきたい。

【5歳児実施分】

問いを考える：

バランスとは何かを考える。片足立ちの秒数を計る中で、「バランスを鍛える為にはどうすればよいのか？」という議題が上がり、『遊び』の中でバランスが鍛えられないか考える。実際にやっていく中でどうすればバランスを保てるか、相談し試行錯誤する姿が見られた。そこから道具を使ったバランスへ展開し、どのような物が乗せやすいか、どのようなポーズがより多く乗せることができるかを考えていった。

探究活動の様子：

片足立ちで何秒立てるか秒数を計ってみる。手の位置や上げている足の位置など様々なポーズをみんなで試してみる中で、「バランスを鍛える為にはどうすればよいのか？」と議題が上がる。そこから『遊び』の中でバランスが鍛えられないか考えていくと、子どもたちからは「けんけんだるまさんが転んだ」「けんけんぱ」「けんけん鬼ごっこ」など普通の遊びを片足でアレンジする案が次々に出てきました。「やってみたい！」「楽しそう！」と意欲的であった。「けんけんだるまさんがころんだ」は「止まるのは難しいからフラフラしてもいいけど両足を着いたら負け。鬼も逃げる人もケンケンで移動する。」「けんけんスカイツリー鬼ごっこ」は「タッチされたらスカイツリーになる。」というルールが決まる。実際にやってみるとけんけんを保つことに苦戦するが、「バランス鍛えられたかな！？」とわくわくした表情が見られた。新しい遊具として竹馬が届くと「これもバランスじゃない?!」と喜び、まずは1本の竹馬に保育者に支えてもらいながら乗ることに挑戦する。片足立ちより難易度が高く、どうすれば上手く乗れるかと質問を投げかけると「棒をよく見る」「足をまっすぐにする」「姿勢を正しくする」「足を動かさない」などの意見が出てくる。「足をまっすぐにしてみる?」「いや足を曲げるんだよ」など意見が分かれることもあったため、その後の遊びの中で実際に試してみることになる。継続して試していく中で「足はまっすぐにするんだよ」「姿勢をピンとするといいよ」「頑張れ！」などお互いに声をかけ合って練習に励む姿が見られた。運動会の個人競技では竹馬を発表したいという声も挙がり、補助付きの竹馬で歩く練習も開始する。

8月のキャストレッスンでは、初回の片足立ちのタイムを振り返り、再挑戦する。バランスを鍛えたことで前回の記録を超えられるか楽しみにする様子があり、前回より記録が大幅に上回る子もいれば、秒数が縮んでしまう子もいた。上手な人はどのようにしているか、どこを見ているか、姿勢はどうか、など子どもたちに投げかけると「上手な人は姿勢が良いね」「まっすぐ前を見る!」という発見があった。

丸いマットやカラーボールを使ったバランスゲームに挑戦する。マットやボールをよりたくさん体に乗せるにはどんなポーズがいいか、マットを使ってボールをより多く運ぶにはどのように運べばいいかなど3、4人のグループで考えていく中で、最初は片足立ちのポーズが多かったが、意見を出し合い工夫していく中でブリッジやV字バランスなどのポーズも出てきた。「マットを5個乗せるためにはどんなポーズが良いかな？」という問いかけからグループ毎にポーズを考え、発表する。「平らな所が多いほうがのせやすいね」「体が大きい方がたくさん乗るんじゃない?」「斜めだと落ちちゃうんだよ」という気付きがあった。その後の活動では、保育室内にある物の中からより多く乗せられるものは何かを4人グループで考え、発表する。レゴの板、分厚い絵本、薄い絵本、ラキューの説明書(A4のコピー用紙をラミネートしたもの)、折り紙、ドミノ積み木など、四角いものや紙製のものが多く挙がり、実際に試してみてより多く乗せられたものをまとめる。グループ毎に発表し、「分厚いもの」「薄いもの」「柔らかいもの」「平べったいもの」「軽いもの」が多く乗りやすいという結果になった。「なぜ多く乗ったのか?」という問いには「分厚いものはバランスが良かったから」「軽いものは落ちにくいから」「柔らかいと体に乗せやすいよね」とそれぞれの考えを伝え合った。

ふりかえり(保育士の気付き)：

バランスについて考える中で子どもたちの中でゲームを考えて遊び、ルールを考えていくことで思考力や問題解決能力を養い、自分達で作上げる楽しさや達成感を味わうことができた。また、柔軟性に自信がある子を中心に様々なポーズを作り出し、互いのポーズを褒め合い、教え合う姿を見ることができた。子どもたちの中でよりバランスを取るためにはどうすればいいか考えていく中で「分厚いものはバランスが良い」「軽いものは落ちにくい」「柔らかいものは体に乗せやすい」という結論にたどり着くことができて感心した。バランス感覚を養う中で体幹も鍛えられ、姿勢も良くなったように感じる。

5. 活動の様子が分かる写真

3 歳児



4 歳児



